

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月28日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-------------|
| 事業所番号 | 0170400097 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人宏友会 | | |
| 事業所名 | グループホーム風車の家 | | |
| 所在地 | 〒063-0059 札幌市西区宮の沢490番地87 (電話) 011-666-8514 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年9月16日 | 評価確定日 | 平成21年10月28日 |

【情報提供票より】 (平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和 平成 11年 12月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 14 人 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|---------------|
| 建物構造 | 軽量鉄骨 造り |
| | 2階建ての 1~2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|----------------|------------|-----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 33,000 円 | その他の経費(月額) | 19,000~22,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) 無 | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 300 円 |
| | 夕食 | 260 円 | おやつ | 40 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 8 名 | 女性 | 10 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83 歳 | 最低 | 64 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 後藤田医院、宮の沢総合クリニック、いとう歯科 |
|---------|------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、自然豊かな環境の中にあつて、隣接して同一法人が設置している特別養護老人ホームと介護サービス事業所が連携して行うシステムを整備している。利用者への対応には、「利用者の一人ひとりが主体性をもって能動的に自立した生活が営むことができるように」をケアの目標として掲げ、利用者が持っている力を引き出し、生活の中で活かすことができるように支援している。職員は同一法人の定期的研修及び外部研修へ積極的な参加や、資格取得によるキャリアアップを図るなど、サービスの質の向上を目指した取り組みをしている。

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価における課題であった重症化や終末期に向けた方針の共有及び災害対策、同業者との交流を通じたケア向上は改善されている。地域密着型サービスとしての理念は文書化していないが、地域との連携を強化しつつある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価を行い、自己を振り返る機会にしている。管理者も職員の意見や要望など日常的には把握し切れないことを知る機会となり、コミュニケーションが深まっている。評価課題や結果は、運営推進会議や職員会議の議題にあげ、改善に取り組んでいる。</p> |
| | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、外部評価の課題を協議している。今年度は家族から提案があった、家族会形式の会議の開催を計画している。しかし、参加層が限られているため多くの職員が参加できる体制を導入したり、会議録を家族に配布するなど、事業所と利用者、家族、地域住民の連携の環が広がるよう取り組んでいる。</p> |
| 重点項目② | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、毎月1回便りを送付している。また、年4回の季刊新聞も発行している。利用者の心身の変化時にはその都度、対応を家族と協議している。さらに、家族来訪時には近況を報告したり、要望の聞き取りなどを随時行っている。家族が行事に参加した際、意見記入用紙に記載してもらったり、運営推進会議で出た意見などを、事業所の取り組みに繋げている。</p> |
| 重点項目③ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所では、祭り、バザーなどの町内行事に参加したり、地域ボランティアを受け入れるなど、町内会の理解と協力を得ながら、積極的に地域との連携を図っている。</p> |
| 重点項目④ | |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 職員全員で作成した理念を基本にケアを実践しているが、「地域」を意識した理念の作成には至っていない。しかし、日常的に外出をしたり、地域内のグループホーム利用者と交流するなど積極的に地域と交流し、事業所と地域の関係性の継続を意識した生活支援に取り組んでいる。 | ○ | 今年度の計画では、地域との関係性の継続や地域生活の継続を支えるための具体的な実践に取り組んでいるので、地域密着型サービスのあり方をとらえた、事業所独自の理念づくりへの取り組みが望まれる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ワーカー室に理念を掲示し、朝の申し送り時に理念を唱和するなど、常に理念の理解を促し意識化するとともにケアに活かす取り組みをしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 事業所では、祭り、バザーなどの町内行事に積極的に参加している。また、地域ボランティアの受け入れや運営推進会議には町内会長が参加し、情報交換を行うとともに意見をもらっている。また、利用者、職員が近隣のスーパーマーケットに買い物に行く機会を増やす取り組みをするなど日常的に交流を深めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員一人ひとりが自己評価に取り組み、自己を振り返る機会にしている。管理者も職員の意見や要望などを把握する機会とし、コミュニケーションが深まっている。評価課題や結果は、運営推進会議や職員会議の議題にあげ改善に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業所の行事や取り組みの報告、意見の聴取、情報交換などを行っているが、参加層が限られているために多くの職員が参加できる体制を導入したり、家族には会議録の配布している。今年度は家族から提案された「家族会形式の会議」の開催を計画している。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市や区で行われる管理者会議に積極的に参加するとともに、札幌市が開催する認知症介護実践研修の実習場所となっており、市との連携は図られている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者毎に複数の担当者を配置し、毎月1回家族へ手書きの便りを送付し近況を伝えている。併せて年4回の季刊新聞も発行している。また、心身の変化時はタイムリーに対応を協議したり、家族来訪時には近況を報告し、要望の聞き取りなどを行っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 契約締結時に苦情相談窓口の説明を行い、さらに、苦情相談窓口を玄関に掲示している。また、家族が参加する行事には意見記入用紙を配布し、意見を自由に書いてもらうなど意見が言いやすいように工夫をしている。運営推進会議において出された家族からの意見を事業所の取り組みに繋げている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 新入職員を配置した際は、利用者への直接的な関わりを控え時間をかけて、なじみの関係づくりをしたり、利用者との橋渡しの役割を他の職員が行うなどダメージをできるだけ少なくするための配慮をしている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 同一法人内の定期的な研修及び外部研修の参加の機会を確保している。研修内容は職員会議で報告し、共有化を図っている。また、資格取得に向けての支援もしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は、市や区で開催される連絡会議で管理者同士の連携を進めている。今年度は、サービスの質の向上を目指して同区内グループホーム利用者交流会に参加し、利用者同士及び職員同士の交流を図っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始直後は、安心した生活をするための声かけや計画の見直しをきめ細かく行ったり、本人がなじんでいる日用品を使用するなど、利用開始前の生活リズムを尊重して過ごせるよう支援している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 理念に掲げている、「礼を忘れず」を常に念頭において利用者に接し、食事、入浴、行事などでの会話を大切にしながら喜怒哀楽を共有するよう支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の会話、行動及び家族からの情報などで本人の思いや希望を把握し、ケース記録に記載したり、職員間で情報の共有化を図りながら、本人が望む生活に近づくように支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者毎に担当職員を配置し介護計画の原案を作り、計画作成担当者と協議し、ケースカンファレンスで職員全員で話し合い、その後家族の承認を得ている。日々の生活の言動や家族との関わりの中から情報収集を行い、本人本位の介護計画を作成するように配慮している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的には6ヶ月に1回、介護計画を見直し、利用開始時、状態変化時は随時期間を設定して見直しを実施している。介護計画はカンファレンスで協議し、ケアの統一を図っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族対応が困難な利用者の受診介助、家族が提案した家族会形式の集いの開催、相互参加型交流講座の実施などに取り組み、家族や地域が求める多機能性に応える支援をしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の意向に沿って、かかりつけ医による支援が行われている。また、協力医による定期的な往診や健康診断を実施したり、必要な受診介助を支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 契約時に、重症化した場合や終末期のあり方について話し合っている。状態が変化した際には、早い段階で家族と協議し方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者のプライバシーを損ねないように、声かけに細心の注意をしている。特に排泄、入浴時の対応は気を付けている。また、個人情報は法人の「個人情報保護に関する基本方針」に則り取り扱っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の生活は日課を決めずに自由な時間帯で過ごし、利用者の体調、今までの生活習慣を大切に、本人のペースでゆったりと暮らせるように支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 楽しんで食事ができるように、利用者が自発的、自主的に準備や後片づけなどの役割を担い、食事も職員と一緒に食べている。また、家族の面会時には、居室で一緒に食事をするなどの配慮をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴はチェック表に記載し、清潔が保持できるように配慮している。家族面会時に一緒に入浴を希望する場合は、希望に応じる対応をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 今年度の事業計画に「利用者が、一人ひとり主体性をもって自立した生活ができるようにする」をあげ、お茶を楽しんだり、季節感を取り入れた外出などを通して役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 今年度は日常的な外出支援を行うために、調味料を近隣のスーパーマーケットで購入する取り組みをしている。また、前庭を利用したくつろぎスペースを作ったり、畑作りなど積極的に戸外に出るよう支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵をかけず、利用者が自由に出入りできる。玄関に鈴を付けて出入りがわかるようにし、利用者が外出したい気持ちが表れた時には安全に戸外活動ができるように、職員が支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、災害時避難訓練を行っている。町内会の協力については、運営推進会議などで話し合っている。さらに、同一法人内からの協力が得られる体制が整備されている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士が、栄養のバランスやカロリーなどを考慮した献立にしている。食事量、水分摂取量を把握し、必要時栄養補助食品を提供するなど個別の対応をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を取り入れた装飾や、行事の楽しい思い出の写真を貼るなど和やかな空間づくりをしており、利用者も個々のペースで共用空間を使い、居心地よく過ごしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談し、利用者がなじんできた家具や写真、記念品などを持ち込んだり、親しんだ寝具などを使えるように配慮し、居心地よく安心した生活ができる様に配慮している。 | | |

※  は、重点項目。